

単元名

# アジア州 —急速な都市の成長と変化—

## 1 単元のねらい

「身近な製品はどこでつくられているのだろうか」という導入から、アジア州が自分たちの生活に大きく関わっていることを実感し、「アジア州はなぜ急速な経済成長ができたのだろうか」という単元を貫く課題に対して、グラフの読み取り方の技能を身に付けながら主体的に探究し、アジア州の自然環境、人口、鉱産資源、文化、歴史などの視点から多面的多角的に考察し、アジア州の地域的特色をとらえることができる。

## 2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア州の自然環境、人口などの地理的特色について地図を活用してまとめ、理解することができる。</li> <li>・経済発展の様子について、グラフの読み取り方の技能を用いて説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア州の経済発展の要因や、その結果としての課題について、州という広がりや地域内の結びつきなどに着目し、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア州を自分たちが住む地域、自分たちの生活と大きく関わる地域ととらえ、単元の課題に対して主体的に追及することができる。</li> <li>・話し合い活動や思考ツールの活用に進んで取り組み、アジア州の地域的特色をとらえることができる。</li> </ul>

●学習改善につなげる評価

○評定に用いる評価

	1	2	3	4	5・6	7 単元のまとめ
知識・技能	●	●	○			
思考・判断・表現				●	●○	○
主体的に学習に取り組む態度	●				●	○

3 単元構造図 (全7時間) ☆獲得する認識

**単元名**  
アジア州  
-急速な都市の成長と変化-

**単元学習前の生徒の認識** ここから世界の各州を勉強していくけど、まずは日本が属するアジア州からだ。中国や韓国などの国があり、歴史では四大文明の中国・インダス・メソポタミア文明を勉強した。それ以外はよく分からないけど、アジア州ってどんな地域なのだろう。

第1時 アジア州をながめて① 【●主体的に学習に取り組む態度 ●知識・技能】

**身近な製品はどこでつくられているのだろう。**

自分たちの身のまわりにある製品を調べて、白地図にまとめたら文房具も衣類も日本のメーカーだと思っていた。特に東アジアや東南アジアに多いことも分かった。なぜ、アジア州はそこまで工業化して経済成長できたのだろう。その視点でアジア州の学習をしていきたい。

第2時 アジア州をながめて② 【●知識・技能】

**アジア州はどのような地域なのだろうか。** ☆季節風(モンスーン) ☆雨季と乾季

アジア州は、寒帯、冷帯、乾燥帯、温帯、熱帯がある変化に富む自然環境だということがわかった。東アジア、南アジア、東南アジアは季節風の影響を受け四季のある温帯や雨季と乾季のある熱帯であり主にその地域に人口が集中している。

第3時 アジアNIESの出現

【○知識・技能】

**アジアNIESの工業化はどのように進み、発展してきたのだろう。**

☆アジアNIES(新興工業経済地域) ☆ハイテク産業

韓国、台湾、香港、シンガポールは工業化に取り組み、急激に成長を遂げたことからアジアNIESと呼ばれている。韓国では輸出額が1960年0.3億ドルだったのに、2017年には5736億ドルと急増した。韓国や台湾は、コンピューターや半導体などのハイテク産業が中心である。急速な成長により、都市問題も起きているが、ニュータウンや交通網の整備で過密問題の解消に取り組んでいる。

第4時 巨大な人口を支える中国

【●思考・判断・表現】

**中国の経済はどのように発展し、今はどんな課題が見られるのだろう。**

☆経済特区 ☆一人っ子政策 ☆華人

中国は世界1位の人口14億人という豊富な労働力や、石炭など豊富な資源を生かした鉱工業や、政府主導で経済特区を設け、外国の企業を誘致していることといった理由が急速な経済成長の要因であることが分かった。今は「世界の工場」とよばれているが、深刻な環境問題や沿岸部と内陸部の経済格差が広がっているなどの課題も見られる。

第5・6時 東南アジア・南アジア・西アジア・中央アジア

【●主体的に学習に取り組む態度 ●○思考・判断・表現】

**東南アジア、南アジア、西アジア、中央アジアはどのように経済発展し、どんな課題が見られるのだろう。**

・東南アジア

☆ASEAN(東南アジア諸国連合)

☆スラム

ASEAN(東南アジア諸国連合)を結成し、協力しながら工業化を進めた。東南アジアは中国のように人口が多く労働力が豊富で、賃金が低いため、製品を安く生産することができ、日本企業は東南アジアに進出した。発展の一方で、これも中国のように都市問題が起き、スラムができ、問題も多く抱えている。

・南アジア

☆ICT

☆再生可能エネルギー

南アジアでは、人口13億人のインドがICT(情報技術産業)中心に急速な発展を遂げている。英語や数学の教育水準の高さや、技術者を育てる国の援助がある。人口増加に対して、再生可能エネルギーの利用と普及に取り組んでいる。

・西アジア

☆OPEC

☆ドバイ

西アジアは、ペルシャ湾岸を中心に石油産出量が多く、OPECを通して結びついている。アラブ首長国連邦の先進的な都市であるドバイが注目されている。

・中央アジア

☆レアメタル

☆鉱産資源

歴史的にシルクロードで栄えた中央アジアは、石炭、石油、天然ガス、レアメタルなどの鉱産資源が豊富で、近年でその輸出で発展してきた。

第7時 まとめの学習 アジア州の学習をまとめよう

【○主体的に学習に取り組む態度 ○思考・判断・表現】

**アジア州の経済成長の理由と課題についてマトリックス表にまとめよう。**

**単元学習後の生徒の認識** アジア州は温帯・熱帯を中心に人口が多く、豊富な労働力がある。また、石油やレアメタルなどの鉱産資源も豊富である。外国企業を受け入れたり、ASEANやOPECのように結びつきを強めたりしながら、経済発展を遂げた。だから身近にアジアの製品が多いことが分かった。急速な都市化に伴う都市問題や環境問題もあるが、これからもまだ成長していくと思う。日本もアジア州に属しているが、その成長についていけるか心配になった。ASEANのように、日本もアジアの国々と結びつきを強めて協力していくのがいいのではないかと考えた。

アジア州は、なぜ急速な経済成長ができたのだろう。

#### 4 単元指導計画

時	ねらい	学習活動	評価規準	資料および留意点
1 アジア州をながめて①	私たちの身近な製品が生産されている国を調べて地図を作製する活動を通して、身近な製品の多くがアジア州で生産されていることに気づき、「アジア州はなぜ急速に経済成長できたのだろう。」という単元を貫く課題に、見直しをもって主体的に取り組もうとすることができる。	<p>1 家庭や身近な製品はどこの国の製品 (Made in ○○) を調べる」の事前にした宿題について確認し、課題化する。</p> <p><b>身近な製品はどこでつくられているだろう。</b></p> <p>2 班で「Made in ○○ (国)」の国を地図帳から探して、白地図に色を塗り、そこに製品名を書き込む。</p> <p>3 作成した地図を基に、交流して分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>色を塗った国は圧倒的にアジアが多く、ヨーロッパやアフリカなどはなかった。</li> <li>携帯電話など電化製品は中国が多かった。衣類はバングラデッシュやベトナム、文房具はタイやマレーシアなどさまざまな国があったけど、とにかくほとんどがアジア製だった。</li> </ul> <p>4 交流した内容を基に、アジア州は、急速に工業化し経済成長していることを知り、単元を貫く課題を設定する。</p> <p><b>《単元を貫く課題》</b></p> <p><b>アジア州は、なぜ急速な経済成長ができたのだろう</b></p>	<p>・地図作成に意欲的に取り組み、分かったことを自分の言葉で説明しようとしたりして、身近な製品の多くがアジアで生産されていることに興味をもち、アジア州の特色を意欲的に捉えようとしている。</p> <p>態度＝授業の様子 知識＝白地図</p>	<p>事前宿題ができていなくても、国を探したり、白地図に色を塗ったりする活動は全員ができるように机間指導する。</p> <p>◇世界の白地図 ◇地図帳</p> <p>記入条件を 1 個は黒斜線、2 個は黒塗りつぶし、3 個は黄色斜線、4 個は黄色塗りつぶし、5 個は赤斜線、6 個以上は赤塗りつぶし等と指定することで、作成した地図が他の地図と比較しやすいようにする。</p>
		<p>自分たちの身の回りにある製品を調べて、白地図にまとめたら文房具も衣類も日本のメーカーだと思っていた。特に東アジアや東南アジアに多いことも分かった。なぜ、アジア州はそこまで工業化して経済成長できたのだろう。その視点でアジア州の学習をしていきたい。</p>		
2 アジア州をながめて②	<p>アジア州の自然環境、人口について、雨温図、写真、グラフ、地図などの資料から読み取ることができる。</p> <p>☆季節風 (モンスーン) ☆雨季と乾季</p>	<p>1 教科書導入の「世界の中のアジア州」の資料から、アジア州は面積が広く、人口が多いことに気づき、課題化する。</p> <p><b>アジア州の自然環境、人口にはどのような特色が見られるのだろう。</b></p> <p>2 「アジア州の細かい区分」を参考にして、自然環境、人口について資料から読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>8000mを越え「世界の屋根」と言われるヒマラヤ山脈がある。西、中央アジアには、乾燥帯が多く見られ、北部のシベリアは寒帯や冷帯。山間部、乾燥地帯、シベリアの人口密度は低い。</li> <li>東、東南アジアは季節風 (モンスーン) の影響を受け、四季があり、降水量が多い。熱帯では雨季と乾季が見られる。温帯と熱帯の東南、東、南アジアに人口が集中している。</li> </ul> <p>3 読み取ったことを交流し、自然環境と人口密度にどのような関係が見られるかをまとめる。</p>	<p>・変化に富む自然環境であるアジア州の概観を資料から読み取ることを通して、アジア州の自然環境と人口密度にどんな関係が見られるのかをまとめている。</p> <p>知識＝資料読み取りの様子</p>	<p>◇世界の中のアジア州</p> <p>◇アジア州の細かい区分</p> <p>◇アジア州の降水量 ◇アジア州の人口密度 ◇アジアの各地の雨温図</p> <p>学習改善につながるよう、資料からわかることをとにかくたくさんノートに書いていくように声をかける。</p>
<p>アジア州は、寒帯、冷帯、乾燥帯、温帯、熱帯がある変化に富む自然環境だということが分かった。東アジア、南アジア、東南アジアは季節風の影響を受け四季のある温帯や雨季と乾季のある熱帯であり主にその地域に人口が集中している。</p>				

時	ねらい	おもな学習活動	評価規準	資料および留意点
3 アジアNIEESの成長	<p>アジアNIEESの輸出品の内訳グラフや韓国の輸出品の変化のグラフから、東アジアの国々の工業化の様子を読みとることができる。</p> <p>☆アジアNIEES(新興工業経済地域) ☆ハイテク産業</p>	<p>1 第1時の復習から、身の回りの製品は東アジアや東南アジアの国ものが多いことを確認し、それらの経済成長した国々をアジアNIEESとよぶことを確認し、課題化する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アジアNIEESの工業化はどのように進み、発展してきたのだろうか。</p> </div> <p>2 アジアNIEESの輸出品の変化の資料から、具体的にいつからいつにどのように、どのくらい変化したのかを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国、台湾、ホンコン、韓国、シンガポールのいずれの国も機械類の割合が一番高い。</li> <li>韓国の輸出品は、1960年は鉱産資源や米や魚介類が中心であったが、2017年には、機械類の割合が40.8%となっている。</li> <li>台湾は、半導体の生産のようなハイテク産業がさかんになってきている。</li> </ul> <p>3 経済が急速に成長したことで、アジアNIEESの都市はどう変化しているのかをまとめる。</p>	<p>韓国やアジアNIEESの輸出品の変化のグラフの読み取りを、いつ、どのくらい、どのように変化しているかを表現できるようにしている。</p> <p>知識＝資料読み取りの様子</p>	<p>地理のスキルアップを活用し、グラフの読み取り方が身に付くように丁寧に指導する。</p> <p>◇アジアの国・地域からの日本への輸出品 ◇韓国の輸出品の変化 ◇アジアNIEESの輸出品の変化(地図帳)</p> <p>◇高層住宅が立ち並ぶホンコンのニュータウン</p>
	<p>韓国、台湾、香港、シンガポールは工業化に取り組み、急激に成長を遂げたことからアジアNIEES(新興工業経済地域)と呼ばれている。韓国では輸出額が1960年0.3億ドルだったのに、2017年には5736億ドルと急増した。韓国や台湾は、コンピューターや半導体などのハイテク産業が中心である。急速な成長により、都市問題も起きているが、ニュータウンや交通網の整備で過密問題の解消に取り組んでいる。</p>			
4 巨大な人口を支える中国	<p>中国が発展してきたのは、中国が持つ世界1位の人口、鉱工業を支える豊富な資源、経済特区を設けるといった政府主導の政策による外国企業の進出ということ、資料や話し合い活動から考察することができる。</p> <p>☆経済特区 ☆一人っ子政策 ☆華人</p>	<p>1 世界のGDPランキングを見て、中国が世界2位の経済大国であることを確認し、課題化する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中国の経済はどのように発展し、今はどんな課題がみられるのだろうか。</p> </div> <p>2 発展の理由と歴史、現在の課題について学習班で課題について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国は人口が14億と世界一多く、労働力。一人っ子政策をしたが、今は廃止している。人口が多いことは経済発展につながる。</li> <li>東南アジアに移り住んだ中国人を華人と呼び、中国の文化を広めた。</li> <li>石炭、鉄鋼と言った資源も豊富である。</li> <li>1980年代から外国企業を受け入れる経済特区を設け、外国企業を積極的に受け入れるようになり、世界各地に輸出する「世界の工場」になった。</li> <li>農村からの出稼ぎ労働者が増え、都市では深刻な環境問題が起きている。</li> <li>格差の拡大が起き、2000年ごろから西部大開発とよばれる内陸部の大規模開発を進めている。</li> </ul> <p>3 全体交流後、課題についてまとめる。</p>	<p>中国が発展してきたのは、中国がもつ世界1位の人口、豊富な資源、経済特区を設けるといった政府主導の政策による外国企業の進出ということ、資料や話し合い活動から考察し、適切に表現している。</p> <p>思考＝話し合いの様子</p>	<p>◇世界のGDPランキング(地図帳)</p> <p>◇世界の人口ランキング(地図帳)</p> <p>◇中国の地下資源(地図帳)</p> <p>◇中国の都市人口と農村人口の移り変わり</p> <p>◇中国の地域別GDP</p> <p>◇首都ペキンの大気汚染</p> <p>話し合い活動や全体交流で自分の理解が深まったところをまとめて書くように支援する。</p>
<p>中国は世界1位の人口14億人という豊富な労働力や、石炭など豊富な資源を生かした鉱工業や、政府主導で経済特区を設け、外国の企業を誘致していることといった理由が急速な経済成長の要因であることが分かった。今は世界の工場と呼ばれているが、深刻な環境問題や沿岸部と内陸部の経済格差が広がっているなどの課題も見られる。</p>				

	ねらい	おもな学習活動	評価規準	資料および留意点
5・6 東南アジア・南アジア・西アジア・中央アジア	<p>東南アジア、南アジア、西アジア、中央アジアの各地域の経済発展と課題について、既習内容を生かしたり資料を活用したりして主体的に調べ、適切にまとめわかりやすく表現することができる。</p> <p>☆東南アジア諸国連合(ASEAN)</p> <p>☆スラム</p> <p>☆ICT</p> <p>☆再生可能エネルギー</p> <p>☆OPEC</p> <p>☆ドバイ</p> <p>☆レアメタル</p> <p>☆鉱産資源</p>	<p>1 第3・4時の学習を生かして、東南アジア、南アジア・西アジア・中央アジアの経済発展と課題について課題化する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>東南アジア、南アジア、西アジア、中央アジアはどのように経済発展し、どんな課題が見られるのだろうか。</p> </div> <p>2 ジグソー法で学習する。学習班で話し合い、4つの地域の担当を決めて、追及をしてまとめ、次回の授業でわかりやすく発表できるようにする。(第5時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東南アジア=ASEAN, スラム</li> <li>・南アジア=ICT, 再生可能エネルギー</li> <li>・西アジア=OPEC, ドバイ</li> <li>・中央アジア=レアメタル, 鉱産資源</li> </ul> <p>3 追究したことを学習班の話し合いで各自が発表する。メモをとり、調べた内容と発表について相互評価する。</p> <p>4 全体交流でそれぞれの経済発展と課題について比較しながらまとめていく。(第6時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東南アジア、南アジア、西アジア、中央アジアの各地域の経済発展と課題について、既習内容を生かしたり資料を活用したりして主体的に調べ、適切にまとめわかりやすく表現し、学び合うことができている。</li> </ul> <p>態度=課題追究や話し合いの様子と相互評価</p> <p>思考=話し合いの様子</p>	<p>◇教科書、地図帳の各資料</p> <p>1人1つの担当を決め、全員が取り組めるようにする。</p> <p>第3・4時のようにまとめるとよいことを伝え、つまづいている生徒には教科書のどこを着目すればよいかを個別に机間巡視で指導援助する。</p> <p>全体交流では板書で視覚的にわかりやすくまとめる。</p>
	<p>7</p> <p>アジア州の学習をまとめよう</p>	<p>1 これまでの学習を振り返り、思考ツールのマトリックス表を確認して課題化する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アジア州の経済成長の理由と課題についてマトリックス表にまとめよう。</p> </div> <p>2 学習班でマトリックス表を作成する。</p> <p>3 作成した表を全体交流で発表し合い、自分たちの表になかった内容があれば書き加える。</p> <p>4 単元を貫く課題について自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学習してきたことを多面的・多角的に考察しながら、マトリックス表にまとめる活動に主体的に取り組んでいる。</li> </ul> <p>態度=マトリックス表</p> <p>思考=単元のまとめ</p>	<p>◇アジア州のそれぞれの地域について経済が成長した理由と経済成長による課題を記入するマトリックス表</p> <p>自分たちの表になかった内容や、なるほどと思う内容を書き込むことを価値付ける。</p>
		<p>アジア州は温帯・熱帯を中心に人口が多く、豊富な労働力がある。また、石油やレアメタルなどの鉱産資源も豊富である。外国企業を受け入れたり、ASEANやOPECのように結びつきを強めたりしながら、経済発展を遂げた。だから身近にアジアの製品が多いことがわかった。急速な都市化に伴う都市問題や環境問題もあるが、これからもまだ成長していくと思う。日本もアジア州に属しているが、その成長についていけるか心配になった。ASEANのように、日本もアジアの国々と結びつきを強めて協力していくのがいいのではないかと考えた。</p>		

